

令和8年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県小・中学校学習状況調査結果を受けた取り組みについて
 武雄市立（ 武雄 ）小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3入学 現6年生	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
	県	全国	県	全国
	57.8	46	56.9	45
	(0.95)	(0.82)	(0.91)	(0.87)
R8正答率の全国比		0.76		0.8

◎5年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和8年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

「構成メモの工夫を捉える問題」「文章の特徴を捉える問題」「筆者の考えに沿った文を選択する問題」に課題が見られた。また、筆者の考えを踏まえて自分の考えを記述する問題においては、無回答率が高い傾向がみられた。

これらのことから、文章の構造や要点を的確に捉える読解力と、それを基盤として自身の考えを根拠とともに論理的に表現する力に課題があると考えられる。

【算数】

「表の間違いを指摘・説明する問題」「分数の大小比較を説明する問題」「全体の時間から部分的な時間を算出する問題」「帯グラフから割合を読み取る問題」に課題が見られた。

問題の意図や条件を十分に把握することや文章情報と表・グラフなどの資料を関連付けて考察することに困難さを感じている児童が多いことが考えられる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・思考や判断の根拠を言葉で表現する対話活動を重視し、指示語（「これ」「それ」等）に頼らず具体的な言葉で説明させる指導を徹底する。
- ・低学年の段階から、図や具体物の操作を通して「分数の概念や大きさ」に対する素地・感性を育む学習を取り入れる。
- ・問題解決の際、設問を事前に確認して課題意識を持ち、問いを意識した読みの目標設定や「俯瞰した読み」「部分読み」等の段階的な指導を取り入れ、「目的意識をもった読解スキル」を育成する。
- ・他者の文章や考えを読み合って構造・論理を分析する機会を増やし、思考の深まりや自身の表現へのフィードバックにつなげる。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・委員会活動や係活動などの特別活動の場面においても、目的に応じて自ら表や図、グラフを作成・活用する体験的な機会を意識的に設定し、日常的なデータを活用する力を高める。
- ・朝の読書タイムや学習タイムを活用し、多様な文章（子ども新聞や解説文等）に触れる機会を増やすことで、日常的に活字に親しみ、長文に対する抵抗感を減らして「読む体力」を養う。